

2017年
7月10日

日本の平和を脅かしているのは誰か



ベテランズ・フォー・ピース・ジャパン 代表
元 陸自レンジャー隊員

井筒 高雄

■政府こそが「共謀」している

南スーダンPKOの日報隠蔽、森友学園・加計学園問題は全て、国民を欺く「共謀」ではないのか。

地方議員を経験した政治家の端くれとして冒頭に申し上げたいのは共謀罪法案に関する議会運営だ。衆参で答弁が三転三転し、議論を尽くさない。挙げ句の果てが委員会の質疑、討論、採決をすつ飛ばし、参議院本会議で発言時間に制限を設け、強行採決。この暴挙は議会制民主主義の破壊であり自殺行為だ。

自民・公明・日本維新は独裁国家を目指しているのか。テロ防止にながらず、国際組織犯罪防止条約批准に関係ない共謀罪法は廃止するしかない。

このままでは、特定秘密保護法・安保法制・共謀罪法が社会を席巻し、戦争への道を押し進め、誰もが萎縮する時代になってしまう。

身柄を拘束されず、不安を感じることなく、自由に発言できる社会でなければならぬ。私たちは共謀罪法が施行されようとも、おかしいことは「おかしい」と発言し、共謀罪法を監視し続ける必要がある。

■都合が悪いと「ないない」

安倍政権はこの本質を隠す手法を十八番とする。森友学園の記者会見に、南スーダンPKOからの唐突な撤退発表をぶつけてくる。戦闘を「武力衝突」と言い張り、実戦任務にも踏み出した。

現在、南スーダンでは首都ジュバでさえ人々は難民化し、飢餓状態にある。未だ解決の糸口は見えない。けれども都合の悪いことは「ない」「ない」ことになっている。自衛隊撤退後の南スーダンにどのような向き合おうか、何ら議論もされていない。

そればかりか、実戦任務に就いた11次隊の隊員が5月6日に自殺を

しても、公表したのは国会の閉会後だ。しかも「職務との関連性はない」という対応。まさに隊員を「駒」としか扱っていない。これで遺族は納得できるのか。また、日報隠蔽問題の特別防衛監察について、未だに中間報告の発表すらない。

■圧力ではなく対話を

5月から6月にかけて4週連続で発射された北朝鮮のミサイル。安倍首相の「欺き」がここでも露呈した。安保法制は「抑止力」になるのではなかったのか。むしろ安保法制こそが北朝鮮や中国との関係を悪化させたのではないのか。米国一辺倒の外交と、北朝鮮と対話せず「圧力」のみで事態の打開を図る手法はすでに失敗している。

2013年米国防総省の報告によれば、北朝鮮は弾道ミサイル250基以上を保有。米軍は「沖縄県の在日米軍基地」を防衛するため、嘉手納基地にPAC3を24基配備している(日本の防衛のためではない)。自衛隊は日本列島全体を目前の32基で防衛しなければならない上、原発が全国に54基もある。加えて現在自衛隊には、迎撃能力のあるイージス艦は4隻しかない。政府はこうした「都合の悪い真実」は語らない。

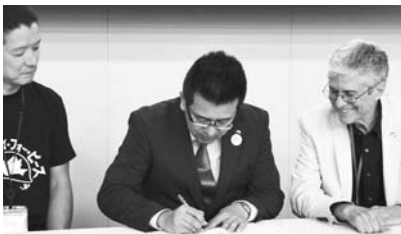
安倍首相は一刻も早く圧力から「対話」に外交戦略を見直し、北朝鮮の望むトランプ大統領との会談を実現させることだ。それが東アジアと米国の安定につながるはずだ。

■VFPジャパンを設立

ベテランズ・フォー・ピース・ジャパン(以下、VFP)は米国の元軍人やその家族、市民らによって1985年に設立された平和団体。イラク戦争などの戦争コスト、帰還兵のPTSD(心的外傷後ストレス障害)被害調査やケア、そして世界各地の紛争地に対する反戦活動、核廃絶等に取り組んでいる。国連認定されたNGOで、全世界にメンバー約8000人、支部120。オリバー・ストーン監督やオノ・ヨーコも賛同人に名を連ねている。

昨年11月、VFP本部から3人が来日し、全国で講演会をした。その際「日本支部があれば」という話になり、後日、VFP会長から正式に設立要請が来た。それを受け、さる6月1日に元自衛官約8人と市民約30人でVFPジャパンを設立し、私は代表に就任した。

今後、VFPジャパンは、政府が語らない戦争の本質とそのリスクについて情報発信をしていく。8月には日本支部設立と現状の報告をするためにVFP本部の年次総会が開催されるシカゴへ赴き、9月には報告会を開催する予定(詳細は左記のサイトに随時掲載)。



■VFPジャパンのホームページ
<http://vfpjp.org/>